６「わからない」という方法（橋本 治）

「わからないけどやる」は、度胸のいることである。なぜかと言えば、失敗の可能性が非常に高いからである。その挫折を思いわずらえばこそ、「わからない」は、「から」という［　Ⅰ　］によって、「やらない」へと続く。これが普通である。やらなければ恥をかかない。そもそもが「恥の文化」である日本社会は、そこに十世紀病を定着させた結果、「わからない」と「恥」とをいとも強固に接続してしまった。

「わからない＝恥」―誰もが①この日本人的な美意識に従ってしまうとどうなるか？　「ぐずぐずしているだけでなにも始まらない」という、いたって日本人的な状態が出現する。（　Ａ　）、日本人はずるいから、そのぐずぐずしているだけの自分たちのていたらくを肯定するために、けさえをも選び出す。みんなが「わからないからやらない」という「恥」の美意識の中でぐずぐずしていると、ここに時として、「じゃ、俺がやる。」というおっちょこちょいが飛び出したりもする。これが［　Ⅱ　］である。

「わからないからやらない」派は、自分たちの保守的な美意識が正しいことを示さんがために、「やめておけ」などという消極的な制止の声を出すが、「わからないけどやる」のおっちょこちょいは、その声を聞かない。聞かぬまま、果たして失敗をしてしまうのである。その結果に対して、②保守派の断定するところが、「ほーら、言ったじゃないか。」とか「そーれ見ろ。」であるのはもちろんである。

かくして、「わからない＝恥」を前提とする、「わからないからやらない」という日本人的な美意識は確固としてしまうのだが、この予定調和的な「なんにもしない状況」は、どのようにすれば打破できるのか？　結局のところ、「③バカと言われることを顧みない度胸」だけが、二十世紀病に冒された日本社会の膠着を突破するのである。

「わからない」を「方法」にするために必要なものは、覚悟である。（　Ｂ　）、「〝わからない〟を〝方法〟にする方法」とは、「〝わからない〟を〝方法〟にする」なのである。

＊語注

＊二十世紀病…筆者の命名。「正解となる理論が必ずどこかにある」と思いこんでいた、二十世紀特有の現象を指す。

問１　［　］Ⅰに入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　順接　　イ　逆接　　ウ　添加　　エ　限定

問２　――線部①の説明として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　「何もせずにわからない」というのは恥だとする考え方。

イ　「わからないのにわかったふりをする」のは恥だという考え方。

ウ　「わからないのにやると恥をかくからやらない」という考え方。

エ　「わからないけどやるのは恥ではない」とする考え方。

問３　（　）Ａ・Ｂに入ることばをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

ア　おおよそ　　イ　つまり　　ウ　たとえ　　　エ　しかも

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）

問４　［　］Ⅱに入ることばを文中から三字で抜き出して答えよ。

〔　　　 　〕

問５　――線部②はどのような人々か。説明している部分を、ここ以前の文中から一五字以内で抜き出して答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問６　――線部③について、「バカ」と罵ることばの具体例が書かれている一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

〔　　 　　　　〕

問７　右の文章の要旨として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　「わからないからやらない」という美意識を覆すには、恥じない度胸が必要だ。

イ　日本社会の膠着状態を突破するには、失敗を恐れず、「わからないけどやる」度胸が必要だ。

ウ　結局は失敗する「わからないけどやる」より、「わからないからやらない」勇気が大切だ。

エ　日本社会の膠着を打破するには、「わからないからやらない」派の積極的な支援が必要だ。

【解答】

問１　ア

問２　ウ

問３　Ａ＝エ　Ｂ＝イ

問４　生け贄

問５　「わからないからやらない」派（14字）

問６　その結果に

問７　イ

ポイント

問５　「『わからないからやらない』派は、自分たちの保守的な美意識が正しいことを示さんがために、『やめておけ』などという消極的な制止の声を出す」と同じ段落の冒頭にある。

問６　「わからないけどやる」派は、やはり失敗する。それを見た保守派は「『ほーら、言ったじゃないか。』とか『そーれ見ろ。』」と嘲笑する。